

津商って

こんな学校なんです



2年 ペンネーム「松原杏花」画

◎新たな年度を迎えて

新年度を迎えました。昨年度のスタートは新型コロナウイルス感染拡大防止のために、5月末まで休校措置が取られていました。オンラインでホームルームを実施し、授業も当初はウェブ配信をしてきました。そのため、特に新入生、現在の2年生は、校舎や友人たちに、そして教員に直接触れることなく始まった学校生活に大きな戸惑いを感じたことでしょう。それでも、6月から対面授業が始まると、そこはやはり若く柔軟性を持った生徒たちですから、すぐに学校生活に順応し、勉強だけでなく、部活動に諸行事にとそれぞれが活躍の場面を見つけてくれました。

そして、11月には三重県総合文化センター大ホールにおいて、津商業高校創立100周年記念式典を挙行することができ、さらに同日、同ホールで学校祭を開催して、年に1度の祭典を大いに楽しみました。

本年度は今のところ休校措置が取られることはないようです。しかし、油断は禁物。一人ひとりが感染拡大防止に十分に留意して学校生活を送ることがとても大切です。

保護者をはじめ、関係の皆様には、本年度も津商業高校の各種の取組にご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。



◎4月8日 令和3年度入学式

昨年度は入学式を挙行してすぐに休校になりましたが、本年度、新入生はそのままりアルな高校生活を始めます。

本年度から1クラス減って6クラスとなりました。ビジネス科5クラス200人、情報システム科1クラス40人、計240人が新たな津商生となりました。希望に夢を膨らませての入学。これから3年間、勉強に部活動に、多くの学びを得て、何人もの友人を得ることでしょう。新入生の皆さんの今後の活躍に心からエールを。



入学式も感染防止のため座席間隔を広く



津商って

こんな学校なんです



2年 宇野涼香 画(朝陽中卒)

◎女子ソフトボール部 春季大会優勝 東海大会へ

5月1日、無観客での決勝戦。女子ソフトボールは順調に強敵を破って決勝に進みました。

戦いはこれまで何度も対戦したチーム。相手ピッチャーは日本でも有数の高速球を投げると評判でした。

そのため、試合は膠着状態。津商業のエース吉村凜投手(西橋内中卒)も負けずに田邊夏鈴捕手(明和中卒)のリードを信じ、力の限り投げ続けました。そしてついに、その田邊捕手のヒットで1点を先取。両チーム2安打ずつ。津商業はこの虎の子を守っての優勝でした。



田邊捕手 藤本副将 山口主将 吉村投手

◎硬式野球部 春季大会優勝 東海大会へ

今年の春季大会、1回戦から3回戦までは、限定的に観客を入れての試合でした。そのため、部員の保護者だけでなく、OBや県内の高校野球ファンの拍手での応援がありました。

その応援に後押しされてか、本校野球部は試合を重ねるごとに力をつけ、強くなっていったような気がします。そして、迎えた準決勝からは無観客試合となり、静かに、しかし熱いゲームが繰り広げられ、5月6日の決勝戦では先制点を手堅く守り切りました。

松井紫温キャプテン(西橋内中卒)は「チーム全員が1球に集中しました。ベンチの力が勝因です」と語っています。副キャプテンの中島憧音選手(橋北中卒)、川面賢真選手(小俣中卒)の二人は「決勝戦が最もいいゲームでした」と振り返り、すべての試合を投げぬいた出口慶人投手(厚生中卒)は「エースとしての誇りを自覚して投げました」と語ります。東海大会へ駒を進めた硬式野球部のさらなる活躍が期待されます。



出口投手 中島選手 川面選手 松井主将



津商って

こんな学校なんです



2年 宇野涼香 画(朝陽中卒)

◎3年生課題研究 津市観光協会の方を招いて

3年生の課題研究「三重の観光研究」と「津商プロデュース」選択者が、津市観光協会の角谷昌彦さんの講演を聞きました。角谷さんは本校出身で、津市の魅力の発信はもちろん、地域活動としての津祭りなどを企画しています。

この授業で出された課題は、県外に住む人に自分の街を案内するとしたらどうするかというものです。生徒たちは地域ごとにグループをつくり、話し合いました。それぞれが話し合った結果を報告したのち、角谷さんからは「観光はまずターゲットを絞ること。つまり、どんな人に向けた企画をするかが大切。そしてもう一つは、自分の街に誇りを持つこと」と語られました。

この日の授業をもとに、生徒たちはそれぞれ、自分自身で課題を設定し、研究を深めていくこととなります。



◎青葉祭 開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、昨年度は2学期の開催でしたが、本年度はその名のとおり、青葉茂れる6月1日に開催することができました。

競技種目を見直して時間を短縮し、使用した器具類は1回ごとにアルコール消毒するなど、

感染予防には最大限

の注意を払いました。生徒たちも競技中以外はマスクをつけ、声を合わせての応援は極力控え、拍手のみ。そのかわりに放送部員が実況アナウンスをしてグラウンド内を盛り上げてくれました。来年度こそは、心ゆくまで声援のおくれる青葉祭となることを心から願っています。



津商って

こんな学校なんです

◎3年生情報システム科総合実践 (株)三十三総研の方を講師に招いて

本校では、地元企業の方々にとってもお世話になっています。今回は、2時間続きの総合実践の授業に、株式会社三十三総研コンサルティング部長でいらっしゃる山川敏様を講師にお迎えして、「ビジネスマナーの必要性と職場・電話のマナー」と題し、講義をしていただきました。なぜビジネスマナーが大切か、それは相手に対して安心感を与えつつ、良好な関係を築くため、職場のマナーは職場全体が効率よく気持ちよく仕事を進めるため、だから、顔の見えない電話対応では、直接話す以上に言葉遣いに気を配る必要がある、などなど。



3年伊藤いちご 画(橋南中卒)



「マナーは形であると考えられがちだが、実は、相手に対する心遣いを表現することだ」と教えられました。まさにビジネスシーンで日々活躍している方の言葉でした。実社会への旅立ちが近づいてきている生徒たちは、この講義から今後役に立ついくつかの事柄を学ぶことができました。

◎商業教育に関する検定

商業教育に関する検定について紹介をします。全国商業高等学校協会(いわゆる全商協会)が実施している主な検定試験は、珠算、電卓、簿記、ビジネス文書実務、プログラミング、ビジネス情報、商業経済、会計実務、英語の9種目です。商業高校の生徒たちの多くは、いずれか3種目で1級を取ること(3冠)をひとつの目標としています。昨年度は、80人の生徒が3冠以上(最多7冠)を達成しました。これは県内ではトップです。もちろん、資格を取ることが目的ではなく、資格を活かして、将来の進路選択につなげていくのです。実際に、企業や大学から要求される資格がいくつもあります。



ビジネス文書実務検定1級問題

津商生たちはすべての検定試験に真剣に向き合っています。

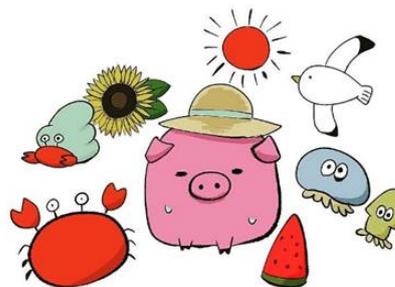


検定開始直前最終チェックをする
ビジネス文書実務検定1級受検生



津商って

こんな学校なんです



◎第37回全国高等学校簿記競技大会に出場

商業高校ならではの部活動のうち、
今回は簿記部の活躍を紹介します。

2年 ペンネーム「マヤクワ」
(みさとの丘学園卒) 画



簿記部3年大石実穂さん(南ヶ丘中卒)は、7月18日(日)、兵庫県で開催された全国高校簿記競技大会の個人戦に出場しました。

初めての全国大会に臨んだ大石さんは「去年は県大会で優勝。でも、全国大会がなかったので残念でした。それで今年こそはとがんばりました。全国大会当日朝は、体調が悪く不安でしたが、簿記の問題に向かったらいつの間にか回復し、入賞は逃したものの、力を出しきれたと感じます」と語りました。さらに「将来は大学で学びを深めて、公認会計士の資格を取得します」と。

大石さんにとっては、中学時代には全く知らなかった簿記が「自らのアイデンティティになっています。簿記に出会って生き方が変わりました」と笑顔で話してくれました。

◎陸上競技部 走高跳でインターハイ出場

この夏休み中、北信越で開催された全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に、陸上競技部2年前川鎮秀さん(西郊中卒)が走高跳に出場しました。



大会直前のインタビューでは「陸上競技との出会いは中学時代。走高跳は中2からです。走高跳はどれだけの高さを跳べるかを競うとても分かりやすい競技。そこが面白いと思います。インターハイでは2m3cmを超える自己ベストを出して、入賞を目指します」と力強く語りました。

今後について聞いてみると「大学に進学して、就職後も陸上を続けたいです。夢はやはりオリンピック出場。そのためにはケガのないよう体調管理が大切です」とのこと。2年生の前川さん、しっかりと将来を見据えています。



津商って

こんな学校なんです



3年 大石実穂 画
(南ヶ丘中卒)

◎再びオンライン授業

9月1日から2学期が始業しましたが、県内に緊急事態宣言が発令されていることから登校を控え、昨年度当



電子黒板を使ってライブ配信

初以来、再びオンライン授業ということになりました。部活動も全面中止です。新型コロナウイルスのまん延は、これまでで最も深刻な状況になっていますので、致し方ないことでしょう。宣言解除まで、必要な教育活動を工夫しながら進めていきます。



書画カメラで問題を解説

◎文芸部1年 牧野ミヤさん 全国高校総合文化祭出場



文芸部1年牧野ミヤさん(西橋内中卒)の「高校文芸みえ」に応募した詩が見事に入賞し、来年8月、東京で開催される全国高校総合文化祭への出場権を得ました。

小学校で金子みすゞの詩に出会った牧野さんは、詩の奥深さに感動し、詩を読むことが好きになり、自分でも書くようになりました。しかし、小・中学校には文芸部はなく、発表の機会は得られませんでした。

コンピュータの勉強がしたくて、情報システム科に入学した牧野さんですが、津商業高校には文芸部があると知り、さっそく入部。そこで書いた詩が「都会(まち)のカッコウ」。

牧野さんは「自分の詩を発表できただけで満足なのに、全国出場とまで評価されて本当にうれしい。情報や商業の勉強とともに文学についてももっと学んでいきたいと思います。作家になることもひとつの夢です」と語りました。

都会(まち)のカッコウ
電信柱の横つちよの
古木にとまったカッコウが鳴くよ
向こうで下向き待つ人に
ほら、ほら、青よ、とカッコウが鳴くよ
慌てて走る子どもらに
はよ、はよお行き、とカッコウが鳴くよ
人のにぎわう四つ辻で
今日も優しいカッコウが鳴くよ



津商って

こんな学校なんです



3年 大石実穂 画
(南ヶ丘中卒)

◎登校再開

緊急事態宣言解除により10月1日から生徒たちが登校。学校が大好きな津商生にとっては、まさに待ちに待ったといえます。対面での学習もさることながら、友だちとの久しぶりの再会、部活動など、これまで十分にできなかった

ことが解禁になりました。とはいえ、運動時以外のマスクの着用、フィジカルディスタンス、昼食時の黙食等々、感染対策を怠ってはいけません。第6波とならないよう、一人ひとりがしっかり注意しつつ学校生活を進めていきます。



◎今年はオリジナルタオルとエコバッグ

3年生が取り組む「ビジネスプラン研究」で開発した商品紹介です。今年はタオルに加えてエコバッグも製作販売。

タオルのデザインをした前川芽生さん(西郊中出身)、稲葉実沙季さん(橋南中出身)、山本優香さん(橋南中出身)は「いろいろな部活を取り入れました。左右対称にするのが難しかった」といいます。初めての試みのエコバッグの製作主担当は清水春菜さん(創徳中出身)、伊藤いちごさん(橋南中出身)。「値段を抑えるための業者とのやり取りが勉強になりました。思った通りできてよかった」と語ります。

また、上田湧哉さん(創徳中出身)は「他校では経験できない授業です。自分にとって大きくプラスになります」、植村海斗さん(東海中出身)は「サービスする側の勉強ができて、社会で活かすことができます」とそれぞれ講座受講の意義を伝えてくれました。

なお、この商品をご希望の方は、本校事務室窓口までお越しただければお分けいたします(平日9時~16時30分・頒価:タオル500円・エコバッグ600円・タオルとバッグセット1,050円。数に限りがございます。郵送等はできません)。



津商って

こんな学校なんです



3年 伊藤いちご 画(橋南中卒)

◎「津商業高校 学校説明会」開催

緊急事態措置が解除された10月23日(土)、県総合文化センター内フレンテみえを会場として、中学生向けの学校説明会を開催しました。感染防止対策のために、中学校別に参加者を分けて、午前、午後各2回、計4回転で学校紹介を実施しました。放送部や演劇部で頑張っている生徒たちが本校の学習内容について、しっかり、ていねいに説明しました。さらに、珠算部と簿記部の生徒たちには模擬授業を展開してもらいました。急遽決まった開催にもかかわらず、参加中学生は4回合計で約320人。事後アンケートでも高い満足度。ありがとうございました。来年4月、津商業で皆さんを待っています。



◎ボート部 県新人ボート競技大会1位で中部選抜大会へ

県新人ボート競技大会にダブルスカルで出場した2年生坂倉愛実さんと岩間菜緒さん(ふたりとも天栄中卒)、舵手付きクォドルプルで出場した2年生近藤舞さん、笠井湖々音さん(ふたりとも亀山中部中卒)の両艇は、それぞれ1位で通過し、中部選抜大会への出場を決めました。中部選抜大会では、残念ながら準決勝敗退ということで、全国につなげることはできませんでしたが、選手たちは本当によく頑張りました。

ボートの面白さを聞いたところ、坂倉さんは「自然を感じられることです」、岩間さんは「乗るほどに記録が伸びていくことです」、近藤さんは「自分はコックス(舵手)なのでレース展開がよく見えるんです」、笠井さんは「追い上げていって最後に勝つ。これがボートの面白さです」と語ってくれました。



とても明るく仲の良いボート部の皆さん



津商って

こんな学校なんです

◎女子ソフトボール部 新人大会優勝！

これまで何度もこの通信に登場してくれた女子ソフトボール部ですが、新チームになり、まともや県新人大会で優勝し、東海大会、そして全国大会へ進みました。まさに、全国常連となっています。新チーム2年生キャプテンの片村颯花さん(度会中卒)は「何よりチームワークを大切にし、みんなで声を掛け合うようにしました」、また、同じく副キャプテンの中井あこさん(三滝中卒)は「コロナ禍でスタートが遅れて不安でしたが、頑張りました」と語ります。県大会優勝では満足しない女子ソフトボール部です。3月の全国大会での活躍を



「古城」1年 加藤愛唯 画(朝陽中卒)



左から 中村羽那さん(度会中卒) 長利和音さん(明和中卒) 中井あこさん(三滝中卒) 片村颯花さん(度会中卒) 期待しています。

◎学校祭 開催！

11月16日の学校祭で、2年ぶりにPTA行事が復活しました。PTA役員の方々が、何より生徒たちを楽しませようと、忙しい中、時間をつくって準備をしてくださいました。当日は生徒たちの大好きな大漁駄菓子船での釣り堀ゲームとじゃんけん大会。今年も大当たりの人にはちみつ饅頭をプレゼント。新型コロナウイルス感染防止対策のために数々のイベントが中止となる昨今、PTA行事ができたことは、本当に良かったと思います。もちろん、生徒たちともども、感染対策はしっかりとおこないました。

翌17日は、総合文化センター大ホールでのステージ発表。有志や部活の発表の他、3年生のすべてのクラスが、これまで練習を重ねたダンスを披露しました。



津商って

こんな学校なんです



3年 伊藤いちご 画(橋南中卒)

◎あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。

平成31(2019)年4月に第1号を発行して以来、3回目の新春号となります。

昨年も新型コロナウイルスのために、ずいぶん不自由な学校生活、教育活動を余儀なくされましたが、それでも、以前と比べれば、様々な事前準備ができていたので慌てることは少なかったかもしれません。

そして、令和4年。ぜひとも今年こそは、新しい生活様式の中、だれもが安心して過ごせるようになってほしいものです。そのためにみんなで協力し合いたいと思います。

本年も、津商業高校に学ぶ生徒たちは多方面で活躍してくれることでしょう。彼ら、彼女らへのあたたかいご支援をよろしくお願いします。

◎ビジネスプラン・コンテストで最優秀賞受賞

3年生の伊藤いちごさん(橋南中卒)は、課題研究の授業で考えたビジネスプランで、椋山女学園大学現代マネジメント学部ビジネスプラン・コンテストに応募しました。地域発展のためのプランで、具体的には、三重の特産品の真珠をとった後のアコヤガイの貝殻を、日本画で使う胡粉(ごふん)として再生産し、絵の具やネイル、ファンデーションなどの化粧品、さらにはカルシウムを摂るためのふりかけにするというプランです。このプランを引っ提げて椋山女学園大学でプレゼンをしたところ、見事に最優秀賞を獲得。「学生ならではのアイデアと目線だ」と学部長にも絶賛されました。伊藤さんは「最優秀賞をいただき、とてもうれしいです。企業の方々との交流もできて、たいへん貴重な経験になりました」と。



なお、伊藤さんはこの通信のイラストを何度か担当してくれていて、今号のイラストも伊藤さんの作品です。



津商って

こんな学校なんです



◎「全商会計実務検定」全科目合格

「財務諸表分析」、「財務会計」「管理会計」の3科目の検定を合わせて「会計実務検定」と呼ばれています。これは、企業の安定性を判断したり、企業会計にとって不可欠な知識を得たり、ビジネス・マネジメント能力を育成したりするための検定です。とても難しい検定で、この3科目すべてに合格者を出した高校は、県内では本校だけです。そのうち、本年度表彰を受ける4人の3年生に合格に対する思い等を語っていただきました。白藤玖望さん(南郊中卒)は「自分なりに頑張りました。うかってよかったです」、赤塚加奈さん(一身田中卒)は「管理会計は授業で選択していなかったので独学でした。だから自分でもすごいと思います」、多田有希さん(嬉野中卒)は「財務会計は手ごたえがなく、合格してびっくりでした。自分の成長を感じました」、大石実穂さん(南が丘中卒)は「簿記部員としての活動目標のひとつだったので、頑張っってよかったです」といっています。みなさんの卒業後の活躍が期待されます。



◎3年生課題研究発表会

商業高校独自の授業である課題研究。3年生全員がグループを組み、学習してきた知識や技能を使って課題を設定し、研究します。本年度は14本の研究が進められました。これまでこの通信でも、地元企業と協働したオリジナル商品開発など、そのいくつかを紹介してきました。



そして、毎年、1月の終わりに1,2年生に向けて研究成果を発表し、後輩たちにつなげていきます。例年であれば、体育館に一同が集まってリアル開催する発表会ですが、コロナ禍のためリモート開催。それでも発表者の熱意は十分に伝わりました。



津商って

こんな学校なんです



3年 小山芽衣 画(橋北中卒)

◎3年生の表彰式

卒業を前に、これまで様々な場面で頑張ってきた生徒を讃える表彰式を実施しました。

商業高校ならではの表彰として、産業教育振興会表彰、全商協会優秀生徒表彰、津商工会議所表彰などが行われました。

3年間、無遅刻、無欠席、無早退であった生徒を表彰する皆勤賞は54人。毎日、部活動で遅くまで練習し、それでも次の日は元気に登校していた生徒がこんなに多かったのかと改めて感心、感動しました。



3年 伊藤いちご 画(橋南中卒)



◎令和3年度卒業証書授与式

3月1日(火)、今年も卒業証書授与式が厳粛に挙行されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、この2年間、多くの制約がかかってしまった3年生です。式自体も、保護者の参列は一人のみで、二人目以降は別室リモート参観、在校生の入場なしという状況でした。みんなとともに卒業をお祝いしたいという思いがつのりました。

それでも卒業生答辞には、充実した高校生活を送ったこと、思い出をたくさんつくったこと、津商業高校での学びを将来に活かしていくこと、そして、お世話になった方々への感謝の言葉が述べられました。

卒業生の前途に幸多からんことを心よりお祈りします。



津商業高等学校公式 Web Page →

3年間、津商業高校通信を記してきた校長、小松です。この3月末、本校での勤務をもって定年退職を迎えます。関係の方々にはたいへんお世話になりました。誠にありがとうございました。今後とも津商業高校をよろしくお祈りします。



津商って

こんな学校なんです

◎津商業高校の時計台についてもう一度

3年前「津商ってこんな学校なんです」の第1号(平成31年4月25日発行)には時計台について書きました。

グラウンドを向いて立っている校舎に時計がついています。そのようすは、一生懸命に頑張る津商生たちを見守る時計台のようです。

津商業で高校生活を送りたいと思い、日頃の努力の成果を活かして入試を突破した240人も、まもなく新たな仲間となり、時計台を見上げることでしょう。



2年 ペンネーム AnFica 画(橋南中卒)



最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、一人ひとりが先輩達とともに目標に向かって頑張ってもらえるだろうと期待しています。

そんな津商生のみなさんへエールを送るために「時計台からのメッセージ」という詩(歌詞)を書きました。それに曲をつけて今年の卒業生には披露しました。

それをここに記して、私の津商業高校通信を閉じたいと思います。

時計台からのメッセージ

あなたたちの輝く姿を時計台は見つめてる
苦しいとき、力ふりしぼる
その心にふるえて
夕日にひかる汗と、思わずながす涙をふいて
明日につなげてゆこう、仲間とならば
今日も大地踏みしめて
時を刻むごとに送られるメッセージ
もう少し手をのばせば届く
ゴールはそこに



校門で登校する生徒たちを迎える築山
前身の励精中学校から数えて創立65周年と
なる昭和59年に建立された巨石「飛翔」



3年間、ありがとうございました。
これからも津商業高校をよろしくお願いします。

津商業高等学校公式 Web Page →

